



市内事業所向け事例報告会(R2.7.15)

北総育成園における 新型コロナウイルス感染症 集団感染への対応

船橋市 健康福祉局

北総育成園の概要

船橋市から約80km



施設区分: 障害者支援施設

定員: 75人定員

利用者数: 入居者70人
(船橋市援護者47人)

開設: 昭和49年

設置者: 船橋市

運営法人: 社会福祉法人さざんか会
(指定管理者)

初動体制

- 3月27日(金) 北総育成園の職員がPCR検査の結果陽性と判明
- 3月28日(土) 全職員と発熱のあった利用者にPCR検査を実施。
3月28日時点で職員31人、利用者26人が陽性と判明。
- 3月29日(日) 県内感染症指定医療機関医師・看護師、国のクラスター対策班、千葉県が合同で施設調査を実施
- 3月30日(月) 千葉県・船橋市・東庄町合同会議を開催。効果的な対策の実施について意見交換
- 3月31日(火) 現地に対策本部を設置

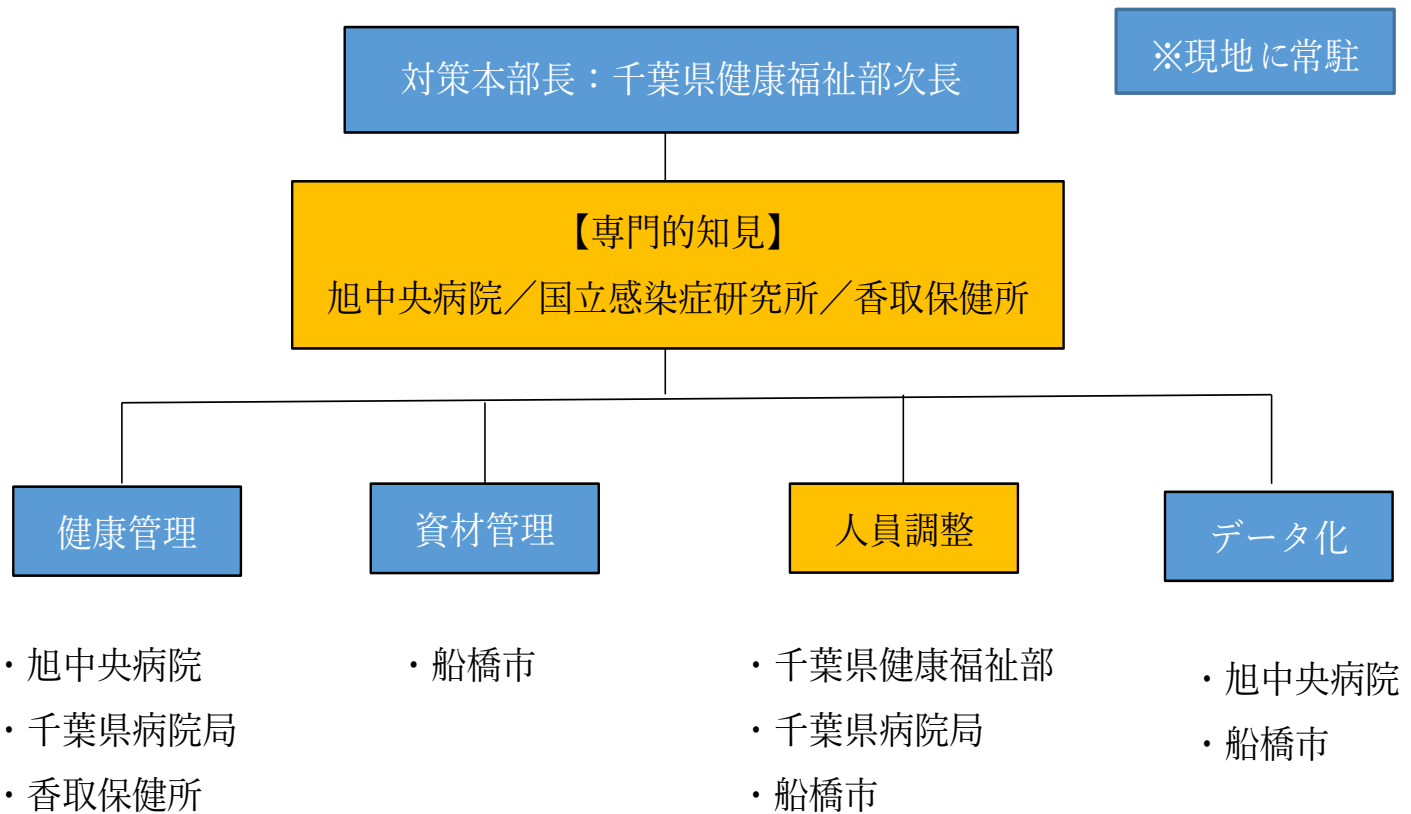
感染状況

区分	陽性者数／対象者数
利用者(入所)	54人／70人
利用者(通所)	2人／3人
利用者(ショート)	4人／9人
職員	40人／67人

日にち	陽性者数／入所者数
4/7	51人/70人
4/19-20	54人/70人
4/29-30	18人/70人
5/6-7	3人/70人
5/12-13	0人/70人

- 5月13日 全員の陰性化確認(PCR検査で2回連続陰性)
- 5月14日 支援対策本部による支援を終了
- 6月 4日 クラスターの終息を公表(5月14日以降2週間以上新たな陽性者と確認された入所者は無し。またクラスター全員の陰性化を確認)

支援対策本部



支援対策本部の支援目的

- 1 利用者への医療の提供
- 2 感染拡大の防止
- 3 施設機能の維持

利用者への医療の提供

①施設での療養

令和2年3月時点の常識

- ・陽性者は医療機関に入院
- ・濃厚接触者は自宅で健康観察

大きな
決断！



- ・重症者は入院
- ・軽症・無症状・濃厚接触者は
施設で療養・健康観察

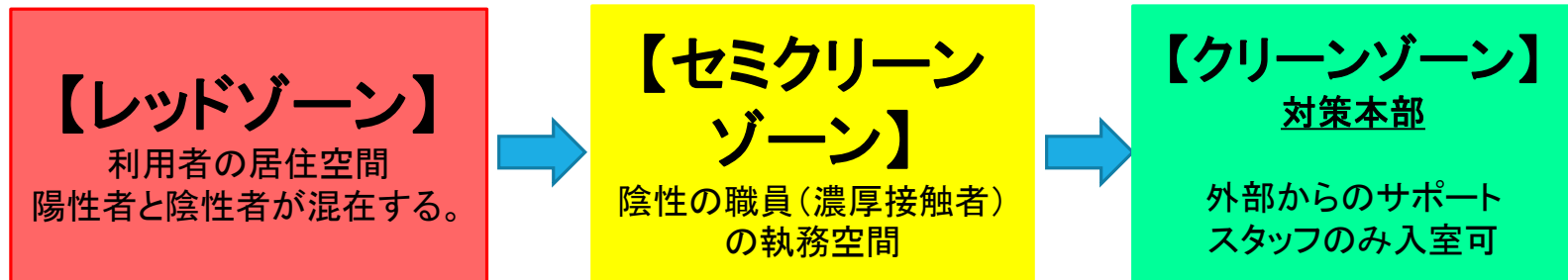
利用者への医療の提供

②医療体制

時期	医療体制
発生～4月20日 (～約3週間)	医師:日中は常駐、夜間はオンコール体制 看護師:日中・夜間共に2人常駐
4月21日～5月1日 (～約4週間)	医師:日中・夜間共にオンコール体制 看護師:日中2人・夜間1人体制
5月2日～8日 (～約6週間)	医師:オンコール体制 看護師:日中1人(夜間オンコールでトライアル)
5月9日	医療体制は全てオンコール

感染拡大の防止

①ゾーニング



※本来レッドゾーンには陽性者のみ

- ・動線を交差させない。
- ・施設職員はクリーンゾーンには入室しない。
- ・各ゾーンで手指消毒とスリッパの使い分け。
- ・換気に気を付け、毎日の清掃・消毒を徹底。

感染拡大の防止

②対策

- ・レッドゾーンで従事するスタッフは、N95マスクやガウン、手袋などの防護具を着けて介助。
- ・感染管理認定看護師が介助に入る職員に対し、ガウン等防護具の安全な脱着等を徹底的に指導。
- ・朝・夕のミーティングにより医療・介助・物資担当スタッフ間で、利用者の状況や物資、感染予防について情報を共有。

感染拡大の防止

③物資

用途	物品種類	備考
防護具 (レッドゾーン用)	不織布ガウン・ディスポキャップ・防水エプロン・ニトリルゴム手袋・マスク(N95)・ゴーグル(アイガード・フェイスシールド等)・ジェル状手指消毒液・消毒薬を持ち運ぶポーチ・シューズカバー	<ul style="list-style-type: none"> ・不織布ガウン入手困難。 ・ゴミ袋の手作りガウンも利用。 ・ジェル状手指消毒液は入手困難
防護具 (グリーンゾーン セミグリーンゾーン)	サージカルマスク・ニトリルゴム手袋	<ul style="list-style-type: none"> ・環境整備(清掃・消毒)のためにゴム手袋を着用
衛生用品 (全てのゾーン)	ごみ袋・消毒液・環境クロス・ハンドソープ・紙タオル・除菌用ワイプ・ハンドローション	<ul style="list-style-type: none"> ・ペール缶が入るまでは、感染性廃棄物を入れるために黒いゴミ袋にまとめていた。 ・消毒液は入手困難。

応援職員は誰も感染しなかった！



施設機能の維持

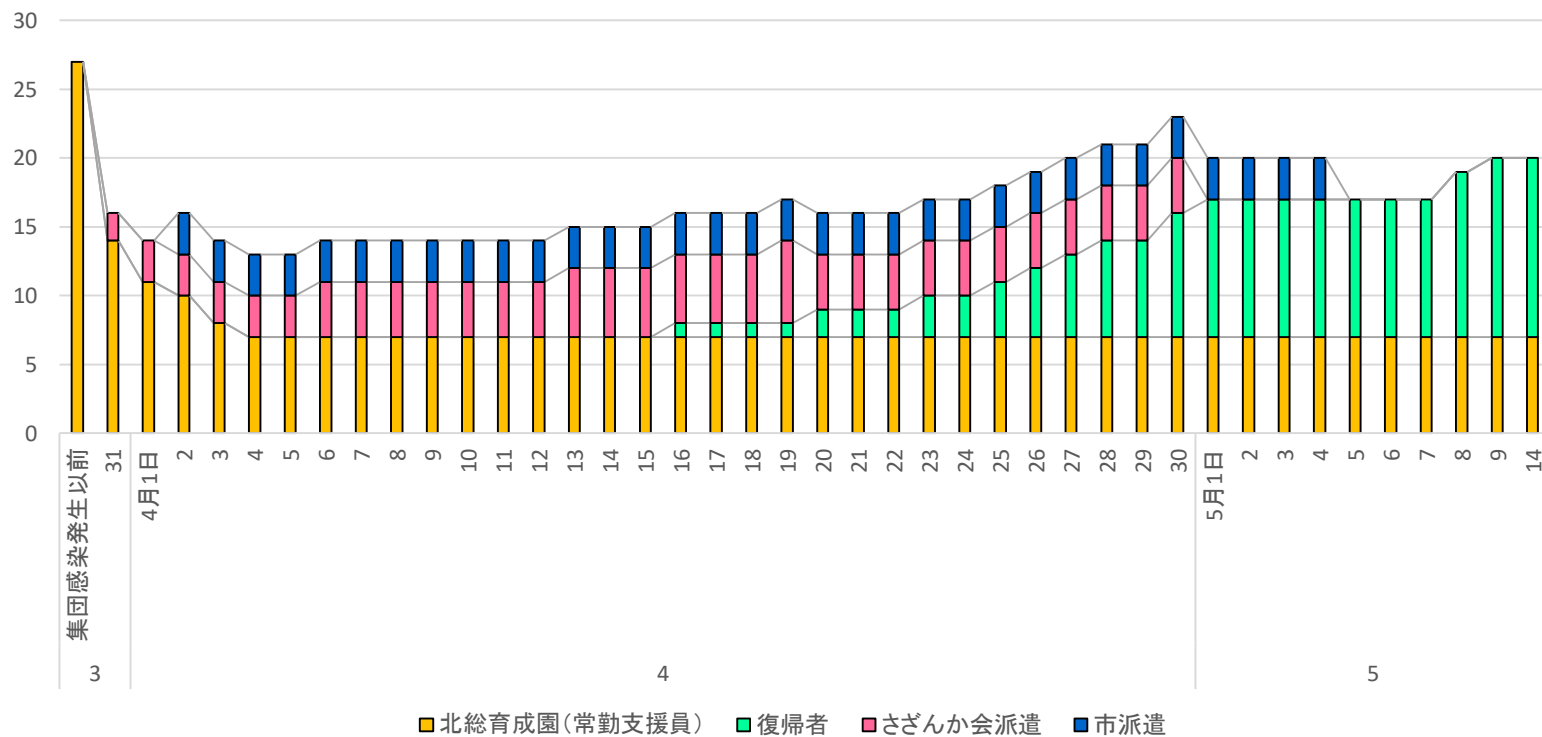


困ったこと

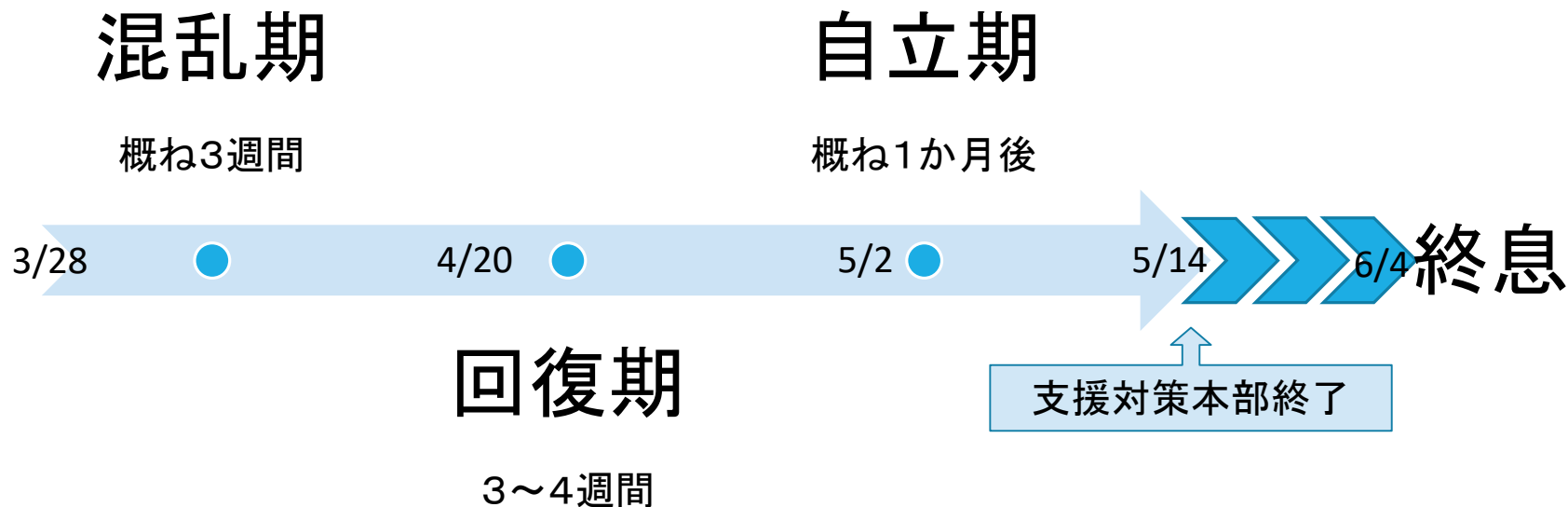
- 食事の確保（アレルギー・刻み食など）
 - 清拭・入浴・口腔ケア
 - 洗濯・着替え
 - ごみ（感染性廃棄物・一般ごみ）
 - 掃除・消毒
 - 施設の事務（銀行・郵便）
- そして……スタッフの確保！！

介助スタッフの不足

介助スタッフ応援体制



終息に向けた行程



混乱期

- 感染者の病状が安定しない。
- 濃厚接触者が陽性化。
- 職員が減少（陽性化・体調不良）

回復期

- ・感染者の症状が落ち着く。
- ・入浴ができるようになる。
- ・物資が不足
- ・マスク対応



自立期

- 感染者が陰性化。
- 施設職員が退院、復帰してくる。
- 健康観察を施設のみで行う。
- 感染症対策の研修を改めて行う。
- 振出に戻らないよう注意。

施設の安全をアピール

- ・段階的に安全をアピール

- ①施設利用者全員の陰性化

- ②2週間以上新たな感染がない

- 県や市からのマスコミ報道で知らせる。
- 周辺自治体に施設から手紙で知らせる。
- 取引業者に手紙で知らせる。
- 利用者の保護者に手紙で知らせる。

伝えたいこと



ご自身の施設では



普段から注意すべきこと

1. 日々の体調を従事者とその家族を含め把握し、少しでも体調が悪ければ自宅待機する。
2. 従事者が感染源とならないよう、「三つの密」が生じる場を徹底して避ける。
3. 症状が無くても患者や利用者と接する際にはマスクを着用する。
4. 手洗い・手指消毒の徹底。
5. 通勤と職場では服を分ける。

6. 食堂や詰め所でマスクを外して飲食する場合、他の従事者と一定の距離を保つ。
7. パソコンやエレベーターのボタンなど複数の従事者が共有するものは定期的に消毒する。
8. チェックリスト(※)による定期点検。

(※新型コロナウイルス感染症対策に係るチェックリスト:市HPに掲載)

厚生労働省配信動画「介護老人福祉施設(特養)のためのそうだったのか」なども参考に。

患者発生時に必要になること

1. 発熱者有り

2. かかりつけ医による診断（インフルエンザ除外など）

3. 保健所に相談⇒PCR検査実施⇒陽性確定⇒患者発生届

4. 保健所へ情報提供

- 入所者名簿・カルテ
- 施設図面
- 入所状況
- 職員名簿・健康観察・勤務表など

5. 保健所による患者調査及び指定医療機関等へ入院
6. 状況に応じクラスター対策チーム招集
7. クリーンゾーンの確保(テーブル、椅子、壁等の消毒)

ヒト

○職員の健康管理

- ・体調不良時には無理せず休む。
- ・体調の記録・勤務の記録

○利用者の健康管理

- ・体調の記録

○利用者情報のデータ化

モノ

○物資の備蓄（普段の使用分＋3日分）

- ・ガウン、サージカルマスク、使い捨て手袋は常備
- ・その他フェイスガード、ディスポキヤップ、N95マスクなどを3日分程度



○物資の在庫管理

- ・何がいくつ、どこにあるかを複数人で把握

【参考例】北総育成園の備蓄

(職員20人程度×3日分を想定)



品目	備蓄量
サージカルマスク	150枚
マスク(N95)	100枚
フェイスガード	300個
キャップ	200個
不織布ガウン	150枚
ニトリルゴム手袋(S/M/L)	計800枚
消毒液	500ml×10本



協力体制をつくる

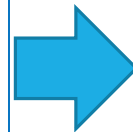


協力体制の構築

①人材派遣の協力

■感染リスクの回避

- ・自分への感染リスク
- ・家族への感染リスク
- ・職場への感染リスク



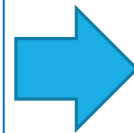
クラスターの中に入ることの恐怖。



徹底した感染防護体制と指導でリスク軽減

■労務管理と処遇

勤務時間・週休日の設定
休暇申請
危険手当



船橋市の職員は船橋市のルールに基づいて業務に従事

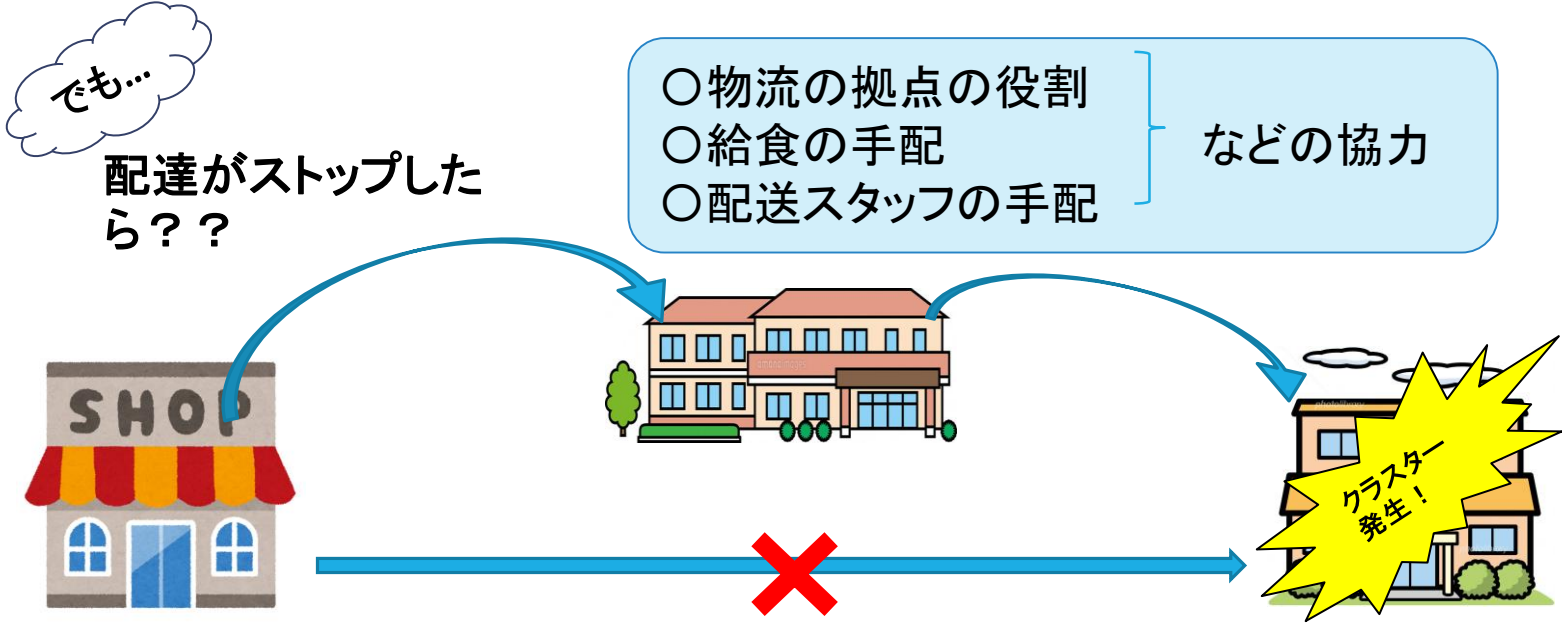


業務の核となるのは派遣を受け入れる法人

協力体制の構築

②物流面での協力

日頃取引のある業者さんが配達をしてくれることが基本。



市全体での協力体制の構築

ご清聴ありがとうございました

